

出演者のプロフィール

松本 克巳 Matsumoto Katsumi : ヴァイオリン



山口県宇部市出身。関西学院大学理学部卒。横山莞五氏に師事。坂本弁護士救出の運動、阪神大震災の被災者支援活動、薬害ヤコブ事件など、さまざまな社会的な活動に音楽家として参加。東日本大震災の際もいち早く被災地に入り、演奏による精力的な支援活動は新聞各紙に大きく取り上げられた。ソロや室内楽の演奏活動も精力的に行ってている。

伊堂寺 聰 Idoji Satoshi : チェロ



東京芸術大学卒業、同大学院修了。在学中より東京ゾリストン室内合奏団で演奏活動を行い、ポーランド、スペイン公演等に参加。1993年より日本フィルハーモニー交響楽団チェロ奏者を務める傍ら、イリス弦楽四重奏団を始め室内楽、ソロの分野でも全国各地で活躍している。チェロを故堀江泰氏、三木敬之、レース・フラショーの各氏に師事。

奥山 幸恵 Okuyama Yukie : ピアノ



聖徳学園短期大学音楽科ピアノ科を経て武蔵野音楽大学音楽学部ピアノ科を卒業。ピアノを青山淳子、平山紀子、久富綏子、ルドルフ・ケレルの各氏、室内楽をモディリアニ・カルテットに師事。現在、室内楽を中心に演奏活動を行なっており、今までに大平まゆみ氏（ヴァイオリン）、林峰男氏（チェロ）、イリス弦楽四重奏団、日本フィル室内楽うずしおカルテット等と共に演。日本フィルメンバーとの共演も多く、道内はもとより道外でのツアーやにも参加している。

日本フィルと北海道定期の歴史

この始まりは、51年前の1972年に突然、「儲からないものに金は出せない」と当時スポンサーであったフジテレビ・文化放送から、全員首切りすなわち解雇されたのが日本フィルハーモニー交響楽団です。ふつう(?)であれば、すぐに新しいスポンサーを探そうとするところですが、日本フィルは「自分達の音楽を守りたい!」「自分達は音楽家であると同時に労働者なんだ!」と苦難の道を選んだのです。その苦難の道を選んだ日本フィルに対して、当時の多くの市民・労働者が自分のこととしてとらえ、全国各地で「頑張れ!日本フィルコンサート」が開かれ、その輪がひろがっていました。その後、和解という形をとりながらも事実上勝利し、今なお伝統を受け継ぎ「市民とともに歩むオーケストラ」の道を歩み続けています。

1976年に第一回の日本フィル北海道公演が指揮渡邊暁雄により行われ、2010年までに34回にわたり公演が続けられました。最盛期には全道11カ所で開催し、労音を中心に演奏会を重ね、オーケストラの音楽を全道に普及させた功績は大きいものがあると考えています。これからも日本フィルは希望と勇気を与える音楽を追求し、人間味あふれ心にひびく演奏をして何よりも聴衆を愛し大事にするオーケストラです!!だからこそ、日本フィルと私たちが切り結んできた伝統を生かして、共に歩みつづけるための努力が努力が求められています。

オーケストラ公演が途絶えて十数年経ちますが、まずは小規模な8人のオーケストラから

“日本フィル定期”的復活に挑戦してみませんか!

